

ワーク①(例)

生活の中の事実を生活機能の視点でとらえる

「喉が渴いた時にはお茶が飲みたい渡邊さん」

| | |
|----|--|
| 1 | (立っていて)ペットボトルとコップがテーブルの上にあるのを見つける |
| 2 | ペットボトルの中身が色とラベルからお茶であることが見える・読める |
| 3 | たくさん話をして喉が渴いたので「お茶でも飲もうかな」「今は飲んでいい」と思う |
| 4 | 立っていた位置からテーブルまで歩くのに障害物がないか確かめ、道順を決める |
| 5 | ペットボトルとコップの置いてあるテーブルに近づくために歩きだす |
| 6 | (障害物に)ぶつからないように、目的の位置を忘れず、視点・進行方向を変えつつ進む |
| 7 | ペットボトルとコップが手に取れる位置を目ではかり、歩みを止める |
| 8 | (体を曲げて)右手を伸ばして、ペットボトルが握れる位置で止める |
| 9 | 伸ばした右手でペットボトルを握りつぶさない、かつ落とさない位の力で握る |
| 10 | ペットボトルを右手で持ち上げて、胸元まで引き寄せる |
| 11 | ペットボトルを左手に持ち替え、左手も握りつぶさず落とさない位の力で握る |
| 12 | フタがあることが見え、右手をペットボトルのフタの位置に持っていく |
| 13 | ペットボトルのフタは左に回せば開くことを既に知っていて、思い出す |
| 14 | ペットボトルのフタを開けるために、右手でフタを左に回す |
| 15 | 左手は右手が左に回す力に負けず、開けた時に中身が飛び出さない位の力を入れる |
| 16 | 指でフタを回し、回す際の抵抗が少なくなったことを感じ、回すのをやめる(フタをあける) |
| 17 | フタを持ち、フタの開けた面を上にしなから手を伸ばし、テーブルの上にフタを置く |
| 18 | ペットボトルを右手に持ち替え、テーブルの上のコップの上方に持っていく |
| 19 | 中身がコップの外に飛び出さない位にペットボトルを傾け、コップにお茶を注ぐ |
| 20 | コップに注がれるお茶の量を見ながら、飲みたい量・こぼれない量を目測する |
| 21 | 十分な量のお茶が注がれるころにペットボトルを垂直に戻す(滴らないような速度で) |
| 22 | ペットボトルをコップの脇にこぼれないように縦置きで置き、右手を離す |
| 23 | 右手でお茶の注がれたコップを落とさない・壊さないような力加減で持ち、持ち上げる |
| 24 | 手でコップを握りつつ、肘や手首を曲げて、コップを口元まで持っていく |
| 25 | 周囲を見て、皆が見ていることに気がつき、皆の前で飲むのは「少し恥ずかしいな」と思う |
| 26 | 「いひっ」と笑って、皆の視線を避けられる後ろを向き、口元を左手で隠す |
| 27 | コップを口にもっていき、唇がコップに触れた感覚の後に、コップを傾ける |
| 28 | 一回で飲める量で、喉が潤ったと感じる量を飲み、口は一定量を溜めて飲み込む |
| 29 | 飲み終わったらコップをテーブルに戻すため、体をひねり向きを変え、手を伸ばして置く |
| 30 | 両手を伸ばし、ペットボトルをテーブルの上で左手で支えて、フタを右手で右回しでしめる |